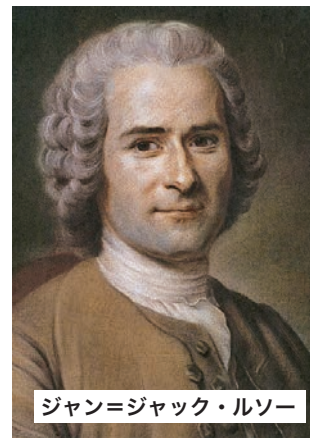


主体性とは **自分はどうしたいのか、何がやりたいのか**

【ルソー著「エミール」より】他人から評価されたいばかりを望むと、富や名誉や権力をめぐる激しい競争に人を巻き込んでいく。すると自分自身の「存在の感情」を他人の評価からしか感じられない人間に育つ。だからルソーは、エミール君を他人と比較せずに競争させたりせずに、野原で思う存分走り回って遊ぶようすを見守る。
特に幼い時から、競争的な評価にさらさないほうがよい。

【余談】教育史上重要な2人の哲学者

ジャン=ジャック・ルソー「子どもの発見」／ジョン・ロック「白紙（タブラ・ラサ）」



ジャン=ジャック・ルソー

■親にとって都合よい育て方

- ・過干渉・先回り・予防線を貼る
- ・強制と指示と命令
- ・良い子であることを求める

■教育価値観を押し付け

- ・親の既成概念の枠で育てる

- ・好奇心がない
- ・創意工夫しない
- ・すぐ諦める
- ・チャレンジしない
(失敗が怖い・正解を目指す・完璧であるとうとする)
- ・他者比較ばかりする



ピアジェの発達段階論

※2000年以前の欧米諸国の多くの学校カリキュラムはピアジェの発達段階を元に構築されている

(いないないばあ)

0-1 歳【感覚運動期】五感から認知発達の第一段階＝対象の永続性・模倣行動

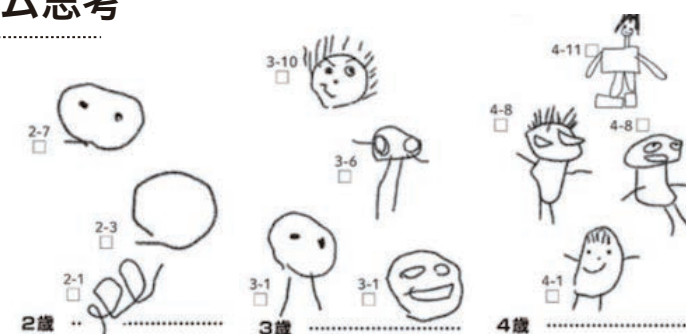
2-7 歳【前操作期】言語の獲得＝保存性の未発達・自己中心性・アニミズム思考

2-4 歳【象徴的思考期】＝目の前にないものも思い出して絵を描ける

4-7 歳【直観的思考期】＝空想ではなく理性で物事を考えらえる時期

7-12 歳【具体的操作期】保存性の概念・数の保存・論理的思考

12 歳以降【形式的操作期】抽象的な問題解決・推論



エリクソンの心理社会的発達理論 (アメリカの発達心理学者)

乳幼児期 (0-1 歳)	信頼	vs	不信
幼児期前期 (1-3 歳)	自律性	vs	恥・疑惑
幼児期後期 (3-6 歳)	自主性	vs	罪悪感
児童期 (6-12 歳)	勤勉性	vs	劣等感
青年期 (12-20 歳)	同一性	vs	同一性拡散 (アイデンティティ)

ウィゴツキーの発達の最近接領域

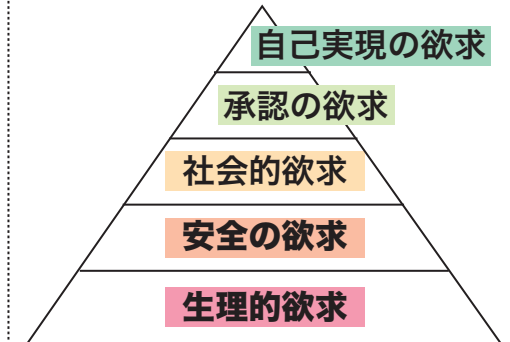
→ 援助があれば潜在的な発達が可能な領域

自分 1 人でできる

援助を受ければできる

自分 1 人でできない

マズローの欲求五段階説 (自己実現論)



主体性（非認知能力）や個性を伸ばすために大切なこと

あせらず・あおられず・ありのまま

他者比較ばかりしない

情報の取捨選択能力

受容・個性を楽しむ

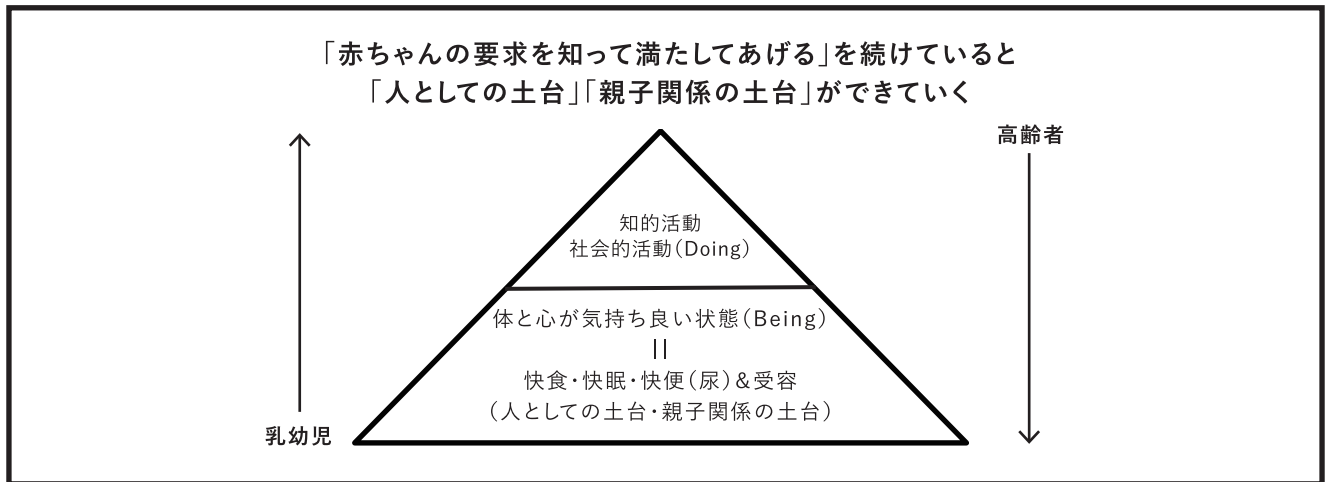
親は前のめり
にならずに

見守り、待つ!

Day ③

赤ちゃんの要求を身体で感じる

『赤ちゃんの要求を満たす』
→『土台をつくる』



1. 赤ちゃんの要求を満たす⇒人間の土台ができる

赤ちゃんの要求を知って満たしてあげていると、赤ちゃんのことがわかるだけでなく、実は、それこそが、赤ちゃんの人間としての土台(体と心が気持ち良い)を作ってあげることにつながっていきます。人間を上記の三角形に例えると、下の土台の部分です。この部分がしっかり豊かに育っていると、大きくなって、三角形の上の部分にあたる、知的活動や社会的活動(勉強ができるとか、良い仕事ができるなど)も健全に行えるようになります。しかし、土台がしっかりできていないと、逆三角形のような不安定な人間になり、その結果、知的活動や社会活動も健全に行えなくなります。

2. この土台は人生の最後まで大きな影響を及ぼす

この「自分は大切にされている」という土台は、乳幼児期にでき上がったら「おしまい!」というわけではありません。上の図の右側に「老人」と「↓(逆矢印)」で示したのは、年老いて、社会の一線から退き、体も思うように動かなくなって、さらに認知症になって自分が誰だか&ここがどこかわからなくなった時、日々の生活の中で、三角形の上の部分の(知的・社会経済的活動)が限りなく消えていき、逆に土台の部分が増える時間が増えていきます。その時、この土台の部分を、乳幼児期にどれだけ豊かに育ててもらえていたかが、その人が人生の最後の時間を幸せに過ごせるか否かに影響するのだと、高齢者介護の関係者は言います。つまり、この土台の部分は、子どもの一生を左右する、大切な財産。それくらい、意義深い価値あるものを育てる作業をしているわけなので、だから「子育てしている時期は、楽しい部分もあるけれど、苦勞も多いな・・・」とを感じるのです。

3. 変化の激しいこれからの時代を生き抜くために必要と言われる能力はすべて「土台」の中にある

①自分はどんな人間か／自分にはどんな人生が向いているかがわかっている

(=自分は何を心地良いと感じるか⇒心地よさの原体験は『快食・快眠・快便と受容』)

②他人の気持ちを豊かに想像できる能力(自分の気持ちを大切に受け止めてもらった経験)